

平成 26 年度事業報告

公益財団法人 小堀遠州顕彰会

(1) 報告事項 (1)平成 26 年度事業報告

(1) 茶会

(イ) 遠州忌茶会

平成 26 年 5 月 10 日(土)京都・大徳寺塔頭 孤篷庵(小堀遠州公菩提寺・重要文化財保護建造物)を開放して開催した。午前 9 時、同庵本堂における遠州茶道宗家 13 世小堀宗実家元の供茶に始まり、法要を営み山雲床において大阪世話人 戸田博氏が濃茶席を、また、忘筌においては東京世話人 吉田浩之氏が薄茶席を、其心庵では小堀宗実家元が薄茶席をそれぞれ担当し、遠州公ゆかりの道具が展観され盛況であった。これに先立ち 9 日(金)に理事会を京都木屋町・たん熊本家において開催し、平成 25 年度事業報告及び同収支決算報告、並びに平成 26 年度事業計画及び同年予算について審議し、原案通り承認を得た。

(ロ) 御自影天神供養茶会 (天神茶会)

平成 27 年 2 月 25 日(水)遠州茶道宗家 (東京都新宿区若宮町)において、遠州公の信仰深かった御自影天神を供養する茶会を開催し、濃茶席を 上原博史氏、薄茶席を小堀宗実家元が釜をかけ、遠州公ゆかりの道具を展観した。

(ハ) 小堀遠州の世界 2014

平成 26 年 11 月 16 日(日)に開催された岡山県高梁市の高梁再発見事業「小堀遠州の世界 2014」を後援し、小堀遠州の庭園を有する頼久寺にて、茶会を行い、その遺徳を広く一般に紹介した。

(2) 展覧会

平成 27 年 3 月 8 日(日)に東京美術倶楽部重文展示室において、小堀遠州ゆかりの茶道具を展観した。

(3) 講演会

(イ) 平成 26 年 10 月 13 日(月・祝) 飯田橋しごとセンターにおいて、第 9 回秋季講演会を開催した。講師は、國學院大学 豊島秀範先生。テーマは「遠州の憧れた定家の世界～すぐれた書承と創作と～」で、定家様という書体を作り上げた藤原定家の人物像や遠州公が名付けた数々の歌銘について講演をいただいた。また「天霽」36 号には講演内容をまとめて頂き掲載した。

(ロ) 平成 27 年 3 月 22 日(日)に虎ノ門 ニッショーホールにおいて、第 28 回公開討論会を開催する。講師は池内克哉監事・熊倉功夫理事・林屋晴三理事・小堀正晴理事長。テーマは「茶の湯と異国好み～茶人が取り合わせた異国の文化～」で、海外製道具の見立てに関する歴史や選び方について討論し多くの聴衆が熱心に耳を傾けた。

(4) 刊行事業

これまでに発行した『小堀遠州の書状』（平成14年5月1日発行）・『続 小堀遠州の書状』（平成18年1月14日発行）に続き、第三集を発行する為、資料を収集し編集をすすめている。

(5) 会報の発行

会報『天霽（てんせい）』36号を発行し、会員に配布した。

(6) 成趣庵の公開

成趣庵の茶室・露地を公開して茶会を開催し、小堀遠州より繋がる建築・造園の美意識を顕彰し、紹介した。

(7) 文化交流

(イ) 日本・シンガポール親善文化交流

シンガポール国立大学日本研究学科において、毎月茶道教室を開催し、遠州の茶道を紹介した。

(ロ) 日本・オランダ親善文化交流

本年も引き続き日蘭文化交流を継続した。

(ハ) 外国人留学生を対象とした交流促進制度

本年度は、シンガポール国立大学のコロア・アルノルドさんを対象とした。

(二) ドイツ 独日協会トリアーとの文化交流茶会

平成26年9月25日～10月1日 中谷 宗玄(向栄会会員 師範)及び、高橋 宗満(遠州茶道宗家事務局 上席師範)の2名を独国 独日協会トリアーへ派遣し、茶道具を寄付し披露茶会等を開催した。

(8) 茶道指導

小堀正晴理事長により広く一般を対象として、遠州の茶道指導を行った。

(9) その他

(イ) 石川県野田山 小堀遠州一族遺跡保存

金沢市にある小堀遠州一族墓所(小堀孫兵衛と小堀新十郎の墓)の維持管理を目的とする小堀遠州一族遺跡保存会に対し寄付を行った。

(ロ) 京都屋敷跡石標建立

遠州公京都三条屋敷跡地の地権者と相談の結果、現標識(コマ札)を財団にて刷新することで合意した。

以上が平成 26 年度における当財団の事業報告の大要である。